

海外実習報告

1113548m

田川純麗

〈実習〉

最初の2週間は **Family Medicine department** でお世話になりました。この科では大学病院ではなく、地域のプスケスマスを起点に実習しました。プスケスマスとは保健所+診療所の役割を持つインドネシア独特の施設です。プスケスマスの診療所では主に糖尿病患者の外来を見せていただきました。この外来でコントロール不良や合併症などの問題が指摘されれば専門医に紹介するという仕組みです。他にも歯科や産科の検診なども行われていました。

プスケスマスの保健所的な役割の一環として、定期的に地域の中学校にトイレや食堂の衛生、子どもたちの健康促進についてなどの指導があります。今回はそれに同行させてもらって、保健室の先生に、健康診断やプスケスマスとの連携についてのお話をうかがいました。半年に一回健康診断が行われているのが驚きでした。

あとはポッシュャンドゥの見学にいきました。ポッシュャンドゥはその地域の乳幼児、妊婦、高齢者の検診を行う小さな施設で、住宅街の中にあります。月に一回身長、体重、血圧などを測って記録しています。私も子どもの身体測定をしたり、血圧を測ったりなどお手伝いさせていただきました。何ヶ所かのポッシュャンドゥにいきましたが、どこでも歓待してもらい毎回お昼をご馳走になっていました。言葉はさっぱりわかりませんが、アットホームな感じがすごくよかったです。

次の2週間は **tropical & infectious disease division** でお世話になりました。専門外来があったり、週2回患者ひとりひとりのマネージメントを考えるディスカッションがあったりなど HIV に重点をおいた内容でした。インドネシアでは HIV 感染者が多く、HATI (HIV Awai Testing&Treatment Indonesia) という早期発見、治療のためのプログラムがあるそうです。回診では、デング熱やレプトスピラなど日本ではめったに見られない感染症を見ることができました。

〈生活〉

食事は全体的に安くておいしいです。一食 200 円前後で食べられました。ただ辛いものは極端に辛く、食べた後はしばらく胃がじんじんしました。その後はなんでも「Padas(辛い?)」と聞くようにしていました。おすすめは「マルタバ」です。ご飯マルタバとスイーツマルタバがあっという間いろんな種類があっという間に楽しいです。ご飯マルタバは平たい春巻きのようなもので、すごくおいしかったです。

あと飲み物がなんでも砂糖入りですごく甘かったです。緑茶も甘くてびっくりでした。言葉は Bahasa(=インドネシア語)です。先生や学生は英語を話してくれましたが、街の人は基本的に Bahasa しか話せず、苦労しました。少し勉強して Bahasa で話しかけるとすご

く喜ばれました。あいさつ、数字、よく使う言葉(高い、辛い、いくら?など)は知っている
と助かりました。

週末は観光にいていました。近場では、バンドンの名所であるタンクバンプラフ火山に
現地の友人と行きました。少し遠いですがバリ島、ボロブドゥールなど有名な観光名所も
LCCが発達しているので手軽にいけてよかったです。

1ヶ月と短い期間でしたが、貴重な経験を得ることができました。協力してくださったすべ
ての方々に感謝いたします。

〈写真〉



TALAGA BODAS という Puskesmas



感染症内科の方々



すごくお世話になった現地の学生のみなさん



ご飯マルタバ。すごくおいしい



ボロブドゥール



バリ島の海
人が少なくてとってもきれい